

韓国語と日本語のモーダル疑問文における 視点の切り替え

(発表スライドの日本語訳)

田窪行則、山田真寛
国立国語研究所

日本語学会 155 回大会公開シンポジウム、立命館大学
2017 年 11 月 26 日

1. 導入

1.1. 韓国語の未来標識-*kes-i* は、認識的用法では疑問文で使えない。

- (1) a. Nayil na-nun Seoul-ey ka-**I** **kes-i**-pni-ta. (意志)
tomorrow I-TOP Seoul-to go-**I** **kes-i**-HON-IND
“明日私はソウルに行く。”
- b. Nayil-un pi-ka o-**I** **kes-i**-pni-ta. (認識)
tomorrow-TOP rain-NOM come-**I** **kes-i**-HON-IND
“明日雨が降ると思います。”
- (2) a. Nayil tangsin-un o-**I** **kes-i**-pni-kka? (意志)
tomorrow you-TOP come-**I** **kes-i**-HON-Q
“明日あなたは来ますか？”
- b. * Nayil-un pi-ka o-**I** **kes-i**-pni-kka? (認識)
tomorrow-TOP rain-NOM come-**I** **kes-i**-HON-Q
“明日は雨が降ると思いますか？”

1.2. *-l kesi-*以外の未来標識を使わなければいけない

(3) The speaker greets a farmer who is looking up at the sky;

a. Nayil pi-ka o-**keyss**-supni-kka?

tomorrow rain-NOM come-keyss-HON-Q

“明日雨が降りますか？”

b. Nayil pi-ka o-l **kka**-yo?

tomorrow rain-NOM come-l Q-HON

“明日雨が降りますか？”

1.3. 日本語の「はず」も yes/no 疑問文では使えない

- (4) a. 地面が濡れているはずです。
b. 山田はいないはずです。
- (5) a. ?? 地面が濡れているはずですか？
b. ?? 山田はいないはずですか。

「はずなのですか？」ならば適切 → 3 節

1.4. 疑問文における視点の切り替え

- (6) a. He will be admitted to Rits. (**I think** he will be...')
b. Will he be admitted to Rits? ('Do **you think** he will be...')

will の視点の切り替え

肯定文

発話者の知識と整合性があるか

疑問文

聞き手の知識と整合性があるか

1.4. 疑問文における視点の切り替え

- (4) a. 地面が濡れているはずです。
b. 山田はいないはずです。
- (5) a. ?? 地面が濡れているはずですか？
b. ?? 山田はいないはずですか？

(4)-(5)の差は視点の切り替えという観点から説明できそうに見える。田窪、金(2009)は「必然性の認識的モデルは視点の切り替えができない」と推定(stipulate)し、(4)-(5)の差を説明しようと試みた。

以下では「はず」を詳細に観察しその語彙的意味から、彼らの推定(stipulation)に理論的な説明を与える。

2. 「はず」

2.1. 「q-はず」文は、論理的帰結を示す

Takubo (2001, 2009)

(7) 「地面が濡れる-はず」文 (= (4a))

1. 雨が降ったら、地面が濡れる
2. 雨が降った
3. 地面が濡れる

(8) 「山田はいない-はず」文 (= (4b))

1. xさんの旅行伺いが提出されていれば、xさんはいない
2. 山田の旅行伺いが提出されている
3. 山田はいない

「q-はず」文は、qを真にする前提(premise)の集合Pを前提(presuppose)としている。
肯定式(Modus Ponens)の形 if p, q では、if p, q と p が前提の集合 P の要素。

$$\frac{p}{q}$$

cf. Conversation Background ((given) “what we know”) (Kratzer 1991)

2.1. 「q-はず」文は、論理的帰結を示す

因果関係がない場合も同様

(9) 「田中は東京に着いている-はず」文

1. 山田は午前8時に東京を出て京都に向かい、田中は午前8時に京都を出て東京に向かった
 2. 山田はちょうど今京都に着いた
 3. 田中は東京に着いている
-

「q-はず」文は、qを真にする前提(premise)の集合Pを前提(presuppose)としている。
肯定式(Modus Ponens)の形 if p, q では、if p, q と p が前提の集合 P の要素。

$$\frac{p}{q}$$

cf. Conversation Background ((given) “what we know”) (Kratzer 1991)

2.2. 「q-はず」疑問文は、矛盾のせいで不適切となる

要素 1. 「地面が濡れている-はず」文

以下を共有知識とする：
雨が降ったら、 地面が濡れる
前提 帰結

1. 雨が降ったら 地面が濡れる … 共有知識
2. 雨が降った … 前提が観察される
3. 地面が濡れる … 帰結が導出される

→ 「地面が濡れている-はず」

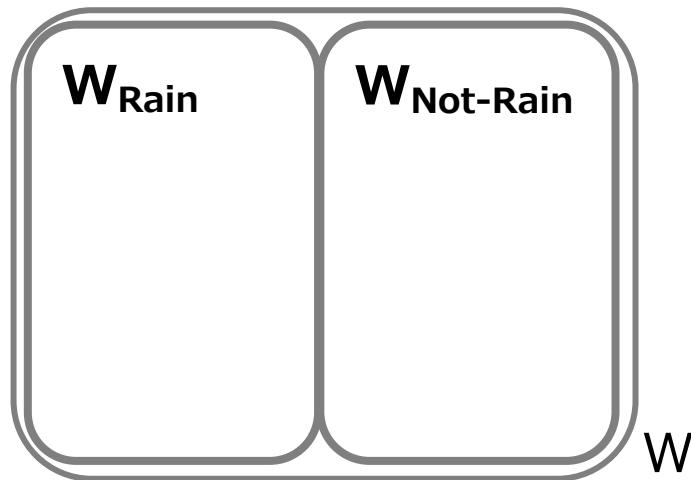
(特殊なことが起こらない限り)

(Kratzer 1981, 1991, 2012)

2.2. 「q-はず」疑問文は、矛盾のせいで不適切となる

要素 2. Yes/No-疑問文： partition (Groenendijk & Stokoff 1984)

(10) 今雨が降っていますか？



W_{Rain}: 今雨が降っている可能世界の集合

W_{Not-Rain}: 今雨が降っていない可能世界の集合

W: すべての可能世界の集合

(11) 私たちのいる世界は W_{Rain} と $W_{\text{Not-Rain}}$ どちらですか？

2.2. 「q-はず」疑問文は、矛盾のせいで不適切となる

- 「地面が濡れている-はず」疑問文 … (a)
1. 雨が降ったら 地面が濡れる … (b) 共有知識
 2. 雨が降った … (c) 前提が観察される
 3. 地面が濡れる … (d) 帰結が導出される
- 「地面が濡れている-はず」
(特殊なことが起こらない限り) (Kratzer 1981, 1991, 2012)
1. 「地面が濡れている-はず」疑問文 (a)は、
これを真にする命題 (b)(c)を前提とする … 「はず」, (P-hole)
 2. 「地面が濡れている-はず」疑問文 (a)
~> “地面が濡れている世界”と”濡れていない世界”、どっち? … yes/no-Q
 3. “地面が濡れていない”は前提 (b)(c) から導出される帰結 (d)と矛盾する
… 矛盾

よって:

「地面が濡れている-はず」疑問文は不適切

3. 「のだ」

3.1. 「のだ」があると「q-はず」疑問文が適切となる

(12)a. ?? 地面が濡れている**はず**ですか？

b. ?? 山田はいない**はず**ですか？

(13)a. 地面が濡れている**はず**なのですか？

b. 山田はいない**はず**なのですか？

3.2. 「のだ」は abduction を引き起こす (Takubo 2009)

以下を共有知識とする：

<u>雨が降ったら</u>	<u>地面が濡れる</u>
前提	帰結

演繹：前提が観察され、帰結が導出される

1. 雨が降ったら 地面が濡れる … 共有知識
2. 雨が降った … 前提が観察される
3. 地面が濡れる … 帰結が導出される
→ 「地面が濡れている-はず」

Abduction: 帰結が観察され、前提が仮定される

1. 雨が降ったら 地面が濡れる … 共有知識
2. 地面が濡れている … 帰結が観察される
3. 雨が降った … 前提が仮定される
→ 「雨が降った-のだ」

3.2. 「のだ」は abduction を引き起こす (Takubo 2009)

以下を共有知識とする：

<u>雨が降ったら</u>	<u>地面が濡れる</u>
前提	帰結

(14) a. 演繹：“帰結-はず”

雨が降っていること（＝前提）が観察され、以下を導出する；
地面が濡れているはずだ。

b. Abduction：“前提-のだ”

地面が濡れていること（＝帰結）が観察され、以下を仮定する；
雨が降ったのだ。

3.3. 「q-はず-な-のだ」 疑問文は、前提を尋ねている

「のだ」を「q-はず」疑問文に付け加えることで、
qが前提とするものを尋ねることができる

降雨に関する経験がほとんどない人が言う；

(15) (この国では雨が降ったら) 地面が濡れているはず**なの**ですか？

1. 雨が降ったら 地面が濡れる ← この部分を尋ねている
2. 雨が降った
3. 地面が濡れる

3.3. 「q-はず-な-のだ」疑問文は、前提を尋ねている

「のだ」を「q-はず」疑問文に付け加えることで、
qが前提とするものを尋ねることができる

事務室で起こっていることをよく知らない人が言う；

(16) (山田の旅行伺いが提出されているのですか？だから)
山田はいないはず**なの**ですか？

1. xさんの旅行伺いが提出されていれば、xさんはいない
2. 山田の旅行伺いが提出されている ←この部分を尋ねている
3. 山田はいない

3.3. 「q-はず-な-のだ」疑問文は、前提を尋ねている

「山田はいない-はず」文

1. xさんの旅行伺いが提出されていれば、xさんはいない
2. 山田の旅行伺いが提出されている ←この部分を尋ねている
3. 山田はいない

「q-はず-な-のだ」疑問文は、前提 p (=上の例では2の部分) を尋ねている
~> “ p (=旅行伺い提出) or $\neg p$ (=旅行伺い提出なし) ”、どっち?

よって

「q-はず-な-のだ」疑問文は適切

“wide scope interpretation of noda”

4. 韓国語の *-l kes-i-*

4.1. 韓国語の“*q-l kes-i-*” は“*q-hazu*”と同じパターンを示す

-l kes-i- は認識モーダルとして使われるときは質問にできない。

- (17) a. Nayil na-nun Seoul-ey ka-**l** **kes-i**-pni-ta. (意志)
 tomorrow I-TOP Seoul-to go-**l** **kes-i**-HON-IND
 “明日私はソウルに行く。”
- b. Nayil-un pi-ka o-**l** **kes-i**-pni-ta. (認識)
 tomorrow-TOP rain-NOM come-**l** **kes-i**-HON-IND
 “明日雨が降ると思います。”
- (18) a. Nayil tangsin-un o-**l** **kes-i**-pni-kka? (意志)
 tomorrow you-TOP come-**l** **kes-i**-HON-Q
 “明日あなたは来ますか？”
- b. * Nayil-un pi-ka o-**l** **kes-i**-pni-kka? (認識)
 tomorrow-TOP rain-NOM come-**l** **kes-i**-HON-Q
 “明日は雨が降ると思いますか？”

4.2. “q-*l kes-i-*” はメタ質問文にできない (= 前提に関する質問文)

- (20) * Pi-ka o-**l** **kes-i-pni-kka?**
rain-NOM come-**l** **kes-i-HON-Q**
“雨が降る (とします) か?”

日本語では前提を質問する場合は「のだ」を使ってスコープを広げ、前提を含める。

これは韓国語では-*l kes-i* の形態論的構造により不可能である。

4.3. 韓国語のメタ質問文は現在の事態の場合は *-nun kes-i-*、過去の場合は *-n kes-i-* をつけてつくる。

- (21) a. Pi-ka o-nun kes-i-pni-kka?
rain-NOM come-**PRES.ADNOM** kes-i-HON-Q
“(雨が降るから) 笠を持っているのですか?”
- b. Pi-ka o-n kes-i-pni-kka?
rain-NOM come-**PAST.ADNOM** kes-i-HON-Q
“(雨が降ったから) びしょ濡れなのですか?”

4.3. 韓国語のメタ質問文は現在の事態の場合は *-nun kes-i-*、過去の場合は *-n kes-i-* をつけてつくる。

-l kes-i- はすでに文法化してモーダル助動詞となっているが、形態論的にはこれらのメタ標識とパラダイムをなす。したがって、*-l kes-i-* の後にこれらのメタ標識をつけることはできない。

(コンピュータの *-i* の現在の連体形は *-n* で、過去の連体形は *-ten* であることに注意)

- (22) a. * Pi-ka o-l **kes-i-n** **kes-i-pni-kka?**
rain-NOM come-l **kes-i-PRES.ADNOM** **kes-i-HON-Q**
Int. “雨が降っている（から傘を持っている）の？”
- b. * Pi-ka o-l **kes-i-ten** **kes-i-pni-kka?**
rain-NOM come-l **kes-i-PAST.ADNOM** **kes-i-HON-Q**
Int. “雨が降っている（からびしょ濡れな）の？”

韓国語の *-l kes-i-* と日本語の「はず」では多少の違いがあり、前者は神様とか降雨実験をしている科学者には質問できるが、日本語ではその場合でも質問は不適切である。

5. 他のモーダル・証拠性表現

5.1. 「かもしれない」(可能性、認識的)

認識的用法は前提を持ち、「はず」と同じパターンを示す。

(22) 静岡で雨が降ると、 1 時間後に東京で雨が降る …共有知識
今静岡で雨が降っている

1 時間後に東京で雨が降る-**かもしれない**

(22) 静岡で雨が降ると、 1 時間後に東京で雨が降る …共有知識
今静岡で雨が降っている

* 1 時間後に東京で雨が降る-**かもしれない?**

√ 1 時間後に東京で雨が降る-**かもしれない-のですか?**

疑問文では「のだ」を使って前提を聞けるようにしなければならない。

5.2 「かもしれない」(可能性、非認識的)

非認識的用法は前提とするものがなく、
「かもしれない」疑問文は単純な可能性を尋ねる

言い換えると、「かもしれない」の非認識的用法は、何も共有知識を持たない

今日の天気に関して、何も知識がない人が言う：

(24)今日は雨が降るかもしれませんか？

5.3. *must* (認識的モーダルの用法と証拠性モーダルの用法)

*must*_{epistemic} = 「はず」 : 疑問文で使えない

*must*_{evidential} = 「はず-な-のだ」 : 前提に関する質問として使える

1. *must*_{evidential} は abductive な推論に使える。

(25) The ground is wet. It must have rained during the night.

If it rains, the ground is wet

the ground is wet 帰結が観察される

it rained-must

前提が仮定される (abduction)

→ “it rained-must”

2. *must*_{evidential} は前提に関する質問として使える。

A: The ground is wet. It must have rained during the night.

B: Oh, must it (have rained (for the ground to be wet))?

5.4. 可能性をあらわす認識的モード

Can, could, might は非認識的用法の「かもしれない」と同じく疑問文で使える。

(26) {Can, Could, Might} it be raining in Los Angeles now?

条件的知識の前提はないため、yes/no-Q の partition を矛盾せずにつくれる。
つまり、単純可能性に関する質問をつくれる。

(“empty CB” a.la. Kratzer 1991))

5.5. 認識的用法の *may* に関する予想

may は質問文で使えない。

(27) *May it be raining in Los Angeles now?

認識的用法の *may* に関する予想

may は条件的前提(conditional premise)を前提(presuppose)にしなければならない。

すなわち

may は単純可能性を質問することができず (*can, could, might* と異なる)
証拠性モーダルとしても使えない (*must* と異なる)

(Kratzer (1991) は *may* を扱っていない)

5.5. 認識的用法の *may* に関する予想

次のものが共有知識だとする：

If there is a halo around the moon,
there is a possibility that it will rain the next day.

1. If there was a halo around the moon,
there is a possibility that it will rain the next day.
2. There is a halo around the moon.
3. It may rain the next day in LA.

共有知識

前提が観察される

3 の yes/no-Q

~> “it may rain in LA” か “it may not rain in LA”, どちら?

1 の後件が “it may not rain in LA” と矛盾する。

したがって、

3 の yes/no-Q は正しい質問文ではない。

5.6. モーダル質問文のまとめ

ok (単純可能性)	ok (前提の質問)	不可
N/A (必然性)	はず-な-のだ	はず
かもしれない _{非認識的}	かもしれない _{非認識的} -のだ	かもしれない _{非認識的}
N/A (必然性)	must _{evidential}	must _{epistemic}
can, could, might	ok? (特殊な文脈のみ?)	?
		may

非認識的なモーダル = 条件的な前提はない

Q → 単純可能性に関する質問

証拠性モーダル = abduction が関係する

Q → 前提を質問する (Takubo 2009, Saito 2006)

認識的なモーダル = 条件的な前提が関係する

Q → すでに知っていることを質問することになり、矛盾する。

5.6. 他のモーダルおよび証拠性モーダル

証拠性モーダルの質問は **abuduction** の一種で、前提（である判断のソース）を聞くものであり、質問が可能である。

「そうだ」（伝聞） 例) 雨が降るそうですか。
=雨が降るということを誰かから聞きましたか。

「ようだ」（比況） 例) 雨が降るようですか。
=雨が降りそうな空模様ですか。

「らしい」（伝聞、推量） 例) 雨が降るらしいですか。
=いまの状況はふつう雨が降るという状況ですか。

「連用形-そうだ」（状況） 例) 雨がふりそうですか。
=このまま行くと雨が降りそうな空模様ですか。

5.6. 他のモーダルおよび証拠性モーダル

「だろうか」(推量)は 疑念 (= 自問) を表す場合以外は力をつけることはできない。

「でしょうか」は一種の疑似質問文として使うことができるが、これは疑念 (= 自問) を相手に見せて反応を求めているものであり、真の質問ではない。したがって質問のイントネーションで発音することはできない。(Takubo (2009)) (すこし違ったアプローチとしては Yurie Hara (2017 JK25 talk)を参照)

「にちがいない」 “must” = 「はず」 “should” (認識的必然性)

6. まとめ

モーダル質問文のまとめ

ok (単純可能性)	ok (前提の質問)	不可
N/A (必然性)	はず-な-のだ	はず
かもしれない _{非認識的}	かもしれない _{非認識的} -のだ	かもしれない _{非認識的}
N/A (必然性)	must _{evidential}	must _{epistemic}
can, could, might	ok? (特殊な文脈のみ?)	?
		may

非認識的モーダル = 条件的前提はない

Q → 単純可能性を質問する

証拠性モーダル = abduction が関係している

Q → 前提を質問する (Takubo 2009, 齋藤 2006)

認識的モーダル = 条件的前提が関係している

Q → すでに知っていることを聞くことになり、矛盾する
(i.e. yes/no-Q の partition が使えない)

References

- Akatsuka, Noriko. 1985. Conditionals and the Epistemic Scale. *Language* 16.624–639
- Groenendijk, Jeroen and Martin Stokhoff. 1984. *Studies on the semantics of questions and the pragmatics of answers*. PhD thesis, University of Amsterdam.
- Hamblin, Charles. 1973. Questions in Montague English. *Foundation of Language* 10. Reprinted in: B. Partee (ed.) 1976. *Montague Grammar*. New York, Academic Press.
- Karttunen, Lauri. 1979. Syntax and semantics of questions. *Linguistics and Philosophy* 1, 3-44.
- Kratzer, Angelika. 1981. Notional Category of Modality. Reprinted with revisions as Ch.2 (pp.27-69) of Kratzer. 2012. *Modals and Conditionals*. Oxford University Press.
- Kratzer, Angelika. 1991. Modality. von Stechow and Wunderlich (eds.) *Semantik: Ein internationales Handbuch der zeitgenössischen Forschung*: 639-650. De Gruyter.

Kuno, Susumu. 1973. *Structures of Japanese*. MIT Press

Oosika T. 1995. Hontaihaak-rasii no setu [Theory of rasii as 'capturing main body']. In: Professors Miyazi Hiroshi and Miyazi Atuko Sensei Koki Kinen Ronsyuu [Festschrift for Professors Miyazi Hiroshi and Miyazi Atuko's 70th birthday]. Tokyo: Meiji Shoin: 527-548.

Saito, Manabu. 2006. Sizengengo no syooko suiryoo to tisikikanri (Evidential reasoning and knowledge management in natural language). Unpublished Ph.D. dissertation. Kyushu University.

Takubo, Yukinori. 2009. Conditional modality: Two types of modal auxiliaries in Japanese. Pizziconi, B. and M. Kizu (eds.) *Japanese Modality: Exploring its Scope and Interpretation*. Palgrave Macmillan.

Takubo, Yukinori and Summi Kim. 2009. Kankokugo-to nihongo-no modaritii-hyoogen-no taishoo (A comparative study of the modality expressions in Japanese and Korean) *Chosen-hantoo-no kotoba-to shakai* (The Languages and the Society of Korean Peninsula): 298-312. Akashi-shoten